

美しい 県土づくりNEWS



2010年
3月

岩手県 県土整備部
手づくり広報誌 68号
平成22年3月25日発行
編集 県土整備企画室

目次

- 2 三陸縦貫自動車道『宮古道路』・『宮古中央インター線』が開通しました
- 3 一般国道342号須川～真湯間が5月30日に開通します
- 4 平成21年度「土砂災害防止に関する絵画・ポスター・作文」で国土交通大臣賞及び砂防部長賞を受賞
- 5 建設業新分野・新事業発表フォーラム開催
- 7 盛川で「ヨシ焼き」を実施しました
- 8 エネルギー自給率向上に向けて消化ガス発電設備が完成へ
- 10 「いわて花巻空港ナイトバスツアー」開催
- 11 市街地のリニューアルが進んでいます(釜石市)
- 12 いわて花巻空港 空港限定「空弁」発売開始
- 13 道路脇の草刈りにご協力いただける団体を募集します



三陸縦貫自動車道『宮古道路』・『宮古中央インター線』開通！！ ～宮古市内の交通混雑の緩和に大きな期待～

平成22年3月21日(日)、三陸縦貫自動車道「宮古道路」4.8km(国土交通省施行)、「宮古中央インター線」0.6km(岩手県施行)が開通しました。

今回の開通により、宮古市内の交通混雑の緩和による定時性の確保や、移動時間の短縮が図られます。



開通式典の様子



市民によるウォーキング



開通後の三陸縦貫自動車道『宮古道路』

三陸縦貫自動車道『宮古道路』・『宮古中央インター線』が開通しました！！

～ 宮古市の交通混雑の緩和や安全・安心な交通の確保に大きな期待～

道路建設課
宮古地方振興局土木部

平成 22 年 3 月 21 日（日） 宮古市の三陸縦貫自動車道「宮古道路」（国土交通省施行）・「宮古中央インター線」（岩手県施行）が開通しました。

開通式典は、宮古市民文化会館で行われ、達増知事から「開通に伴い、混雑の緩和や津波浸水時の迂回路が確保されることとなり、三陸沿岸地域にとって、地域間交流促進や物流円滑化、医療支援など様々な効果が期待される。今後とも高規格幹線道路ネットワークの早期全線開通に向けて取り組みたい。」と挨拶。山本宮古市長からは、「高規格幹線道路の完成は地域活性化のために重要。市民生活の向上につながる。」と喜びの言葉がありました。

その後、宮古市立花輪小学校の児童による「鹿子踊り」で式典を盛り上げ、関係者によるテープカット、くす玉開披を行い完成を祝いました。

式典後には、宮古市松山の宮古中央 IC から記念パレードを行いました。



達増知事挨拶



宮古市立花輪小学校の児童による「鹿子踊り」



【整備効果】

三陸縦貫自動車道「宮古道路」・「宮古中央インター線」の開通により、同市津軽石から板屋地区まで国道 45 号と国道 106 号を走行した場合に比べ、**所要時間は 14 分程度短縮**されます。

また、津波などの災害時の緊急輸送道路としての役割も担っており、沿岸部の安全・安心な交通網が確保されるなどの効果も期待されます。



開通後の三陸縦貫自動車道「宮古道路」

一般国道 342 号須川～真湯間が 5 月 30 日に開通します!!

砂防災害課
一関総合支局土木部

平成 20 年 6 月 14 日に発生した岩手・宮城内陸地震により被災し、現在も全面通行止めが続いている一関市厳美町の一般国道 342 号須川～真湯間(約 15km)について、**5 月 30 日に開通**する予定となりましたので、お知らせします(一部片側交互通行)。

地震により、須川～真湯間は大規模崩壊が 4ヶ所で発生したほか、路面の地割れや隆起などが多数発生し、被災当日から全面通行止めになっています。本格的な復旧工事は、平成 21 年 3 月に始まり、工期短縮に向けた取り組みもあって、**順調に工事が進捗しました**。また、災害復旧工事に併せて、拡幅や待避所の設置等による「1.5 車線の道路整備」も実施し、**車両同士のすれ違い困難箇所の解消など、震災前よりも安全性・快適性に優れた道路**になるよう整備を進めました。

今後は、舗装や法面などの残る復旧工事を進めていきます。

5 月 30 日の開通日には、**真湯ゲート前で開通式典を開催**するほか、**須川～真湯間でのパレード**や**一つ石地区での復興記念碑除幕式**などを予定しています。また、一関市でも、開通日前に**ウォーキング**や**リレーマラソン**などのイベントを計画しているとのこと。



被災直後



平成 21 年 11 月



烏帽子の 2 地区



茂庭沢地区

平成 21 年度「土砂災害防止に関する絵画・ポスター・作文」で 国土交通大臣賞及び砂防部長賞を受賞！！

砂 防 災 害 課

国土交通省では、例年、土砂災害防止月間（6月1日～6月30日）行事の一環として、全国の小・中学生の皆さんから土砂災害やその防止に関する絵画・ポスター・作文を募集し、優秀な作品を表彰しています。

今年度、本県では、小・中学校あわせて19校から183点の応募があり、応募作品の中から各部門の優秀作品を国土交通省に推薦したところ、**中学生ポスターの部で陸前高田市立第一中学校3年小林大輝君の作品が全国1407点の応募の中から国土交通大臣賞（最優秀賞）を受賞、小学生絵画の部で山田町立山田南小学校6年福士諒君の作品が全国1019点の応募の中から砂防部長賞（佳作）を受賞**しました。



大臣賞を受賞した小林君の作品

～ 受賞者 ～

国土交通大臣賞（中学生・ポスター部門）

陸前高田市立第一中学校 3年 小林 大輝 君

国土交通省砂防部長賞（小学生・絵画部門）

山田町立山田南小学校 6年 福士 諒 君

賞状の伝達は、平成22年3月11日（木）にそれぞれの学校で行われ、藤原砂防災害課総括課長から賞状と副賞を贈呈しました。

自身の作品について、国土交通大臣賞を受賞した小林君は、自分たちの住んでいる地域における土砂災害の危険箇所について、しっかり確認することが必要と考え、そのことを親が子供に教える姿をイメージしながら制作した、とのことでした。



前原大臣からの賞状と小林大輝君



砂防部長賞を受賞した作品と福士諒君

建設業新分野・新事業発表フォーラム開催

建設技術振興課

平成22年2月16日(火)、(社)岩手県建設業協会、岩手県等の主催で「第7回新分野・新事業発表フォーラム」を盛岡市のエスポワールいわてで開催しました。

フォーラムには建設企業、県関係者など約150名が出席し、厳しい経営環境が続く中での新分野・新事業に挑戦する企業の取組みの成果を確認していただきました。

フォーラムでは、建設業新分野進出等表彰式を行ない、今年度は、最優秀賞3社、優秀賞5社を表彰しました。この建設業新分野進出等表彰は、農林水産、環境リサイクル、保健福祉などの各分野における先進的・意欲的な企業の取組みを顕彰し、広く奨励することを目的に、平成17年度から行っているものです。

その後、各企業から、新分野、新事業の表彰事業の取組みについてプレゼンテーションを行なっていただきました。

商品・事業PRブースでは、新分野進出企業29社による事業のパネル展示を行ないました。また、農業分野等に進出している13社による商品チャリティー販売も行なわれ、売上金は、後日、日本赤十字社岩手県支部に「ハイチ地震救援金」として全額寄付されました。



宮館副知事より表彰状授与



記念撮影



表彰受賞者プレゼンテーション



商品・事業PRブース

建設業新分野・新事業発表フォーラム概要

日 時 平成 22 年 2 月 16 日 (火) 13 : 00 ~ 16 : 30
 13 : 00 ~ 平成 21 年度建設業新分野進出等表彰式
 14 : 00 ~ 講演「農法がブランドの時代！～米作り名人と建設業の新たな連携～」
 有限会社ヒーロー 代表取締役社長 石ヶ森 信幸 氏
 15 : 10 ~ 表彰受賞者プレゼンテーション
 (13 : 00 ~ 商品・事業 P R ブース)
 会 場 エスポワールいわて (盛岡市)
 主 催 (社) 岩手県建設業協会、岩手県、国土交通省東北地方整備局、東北地方建設産業再生協議会
 後 援 (財) いわて産業振興センター、(社) 岩手県建設産業団体連合会

平成 21 年度建設業新分野進出等表彰企業・奨励企業一覧 (分野別五十音順)

1 最優秀賞 (3 社)

	分 野	企 業 名	所 在 地	事 業 内 容
1	環境リサイクル	(有) クレンリネス サンライズ	奥州市	食用廃油を使ったバイオディーゼル燃料製造販売事業
2	建設	(有) アサヒテクノ	北上市	土壌浄化対策工 (すっからか ~ ん工法) 事業
3	サービス関連	(株) 太田建設	奥州市	パークゴルフ場運営事業、パークゴルフ用品販売事業、 バラ園運営事業、バラ切花、苗販売事業

2 優秀賞 (5 社)

	分 野	企 業 名	所 在 地	事 業 内 容
1	農林水産	遠野建設工業 (株)	遠野市	菌床椎茸栽培・販売事業
2	環境リサイクル	(株) 舞石組	一関市	乾式製砂システム「V7」による再生砕砂製造販売 事業
3	保健福祉生活	(株) 佐賀建設	花巻市	短期入所生活介護事業・介護予防短期入所生活介護 事業
4	建設	(有) 丸已建設	一関市	家族と地球が長生きできる岩手 (寒冷地) 発の地中 熱利用住宅開発事業
5	サービス関連	(株) 司組	盛岡市	盛南温泉開運の湯運営事業

3 奨励企業 (7 社) 表彰対象とはなりませんでしたが、意欲ある取組が評価され、「奨励企業」と認定されました。

	分 野	企 業 名	所 在 地	事 業 内 容
1	農林水産	横田建設 (株)	一関市	前面有孔ポリを用いた椎茸生産量の拡大を推進する技術 革新事業
2	環境リサイクル	蒲野建設 (株)	久慈市	人にも環境にもやさしい「廃棄物由来のリサイクル堆肥」 製造事業
3	建設	(株) 菅七工務店	盛岡市	セキュリティフィルム (防犯、防災、省エネ、飛散防 止、プライバシー保護フィルム) 販売施工事業
4	サービス関連	(株) 遠忠	八幡平市	遠忠馬場鉱山 馬場珪石・馬場珪砂販売事業
5	サービス関連	(株) 小原建設	北上市	出張版かけっこ体育館事業
6	サービス関連	樋下建設 (株)	盛岡市	観光バス事業
7	サービス関連	東北緑生 (株)	北上市	ドッグラン、ペット火葬業運営事業

盛川で「ヨシ焼き」を実施しました！！

～大船渡に春を呼ぶ恒例行事～

大船渡地方振興局土木部

平成 22 年 2 月 28 日（日） 地域住民や漁業関係者の皆様のご協力により、大船渡市内の盛川河川敷で「ヨシ焼き」を実施しました。

盛川の「ヨシ焼き」は、平成 13 年 8 月の台風 11 号で、盛川から大船渡湾内に流出したヨシやカヤによって養殖施設等に被害が発生したことから、洪水時のヨシ流出対策のひとつとして平成 16 年 3 月から大船渡市と共催で実施しています。一昨年、昨年は荒天で中止となったため、3 年ぶり 5 回目の実施となりました。

当日は、曇り空ながら比較的暖かく無風で、まずまずの天候の中、早朝から 150 人余りの方々が参加し、護岸や堤防などのゴミ拾いと、約 1 ヘクタールの中州の「ヨシ焼き」を行いました。

前日に降った雨の影響でヨシが湿っており、ヨシ山への着火に手間取っているうちに、チリ沿岸で発生した地震による大津波警報が発令されました。そのため、予定より一時間ほど早く終了することとなり、慌しい消火作業となりましたが、消防団の協力により迅速に消火することができました。

開会式の様子

地域のボランティア参加者など 150 人余りの方々が集まってくださいました！！



ヨシ山に点火！

強力なバーナーを使っているのですが、なかなか着火してくれません・・・



ヨシ焼き真っ最中

この光景が約 500m に渡って繰り広げられました！



消火もばっちり！

消防ポンプの威力は絶大です！消防団の方々に感謝！！



エネルギー自給率向上に向けて消化ガス発電設備が完成へ

バイオマスエネルギー利活用で環境に管理にECO&ECO

北上川上流流域下水道事務所

北上川上流流域下水道都南浄化センターでは、バイオマスエネルギーの利活用で環境負荷の低減と管理費削減を図るため、常用 560kw の消化ガス発電設備を導入し、調整運転を行っていますので、この事業の概要についてご紹介します。

事業の背景

都南浄化センターでは、流入下水をきれいにする過程で発生する汚泥を減量するため、汚泥に含まれる有機物をメタン生成菌で分解する「消化」という処理工程を取り入れています。

この「消化」により、メタンを 6 割程度含む可燃性のガス(消化ガス)が生成されますが、このガスは生物由来の再生利用可能な**バイオマスエネルギー**の一種です。1m³当たりの発熱量は 6,000kcal 程度と都市ガスの 10,000kcal に比べるとやや低いですが、日々生成される**有効なエネルギー資源**であり、更に、**バイオマスエネルギーはカーボンニュートラル**であることから、燃焼に伴う CO₂ は排出量の合計に含まれないという利点もあります。

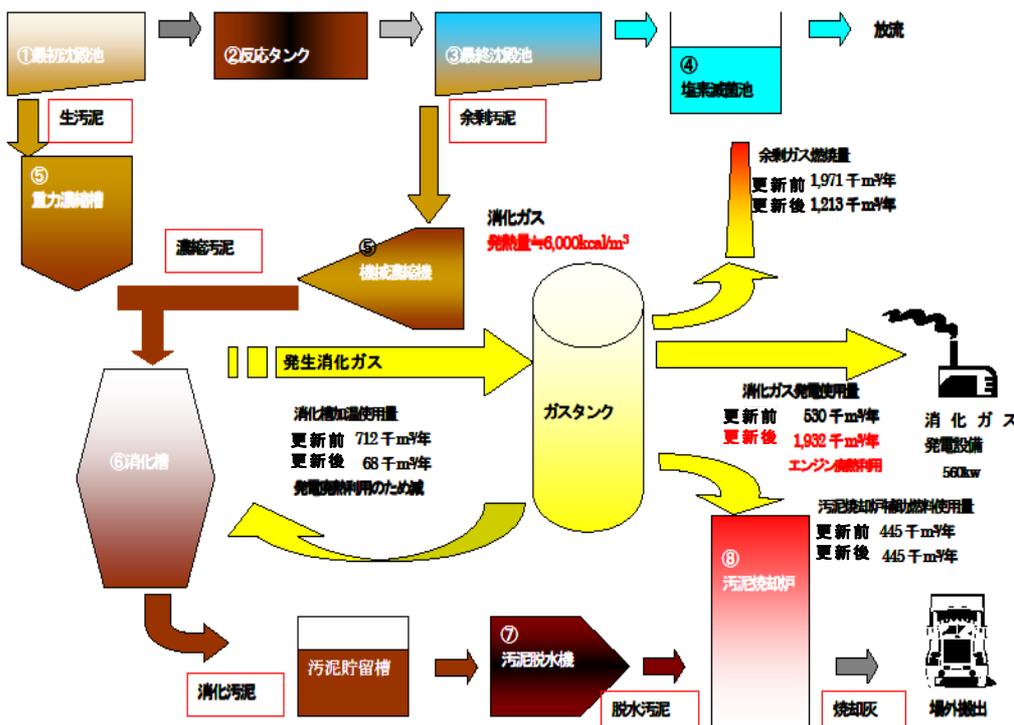
一般的に消化ガスは、「消化」を効率よく進めるための浄化槽加温用の燃料として利用されますが、都南浄化センターでは、このエネルギー資源の有効利用に取り組み、昭和 63 年から、135kw の消化ガス発電設備を導入し電力を供給してきました。

それ以来、現在に至るまでこの発電設備の稼働により、浄化センター内の年間使用電力量の 7.3%を賅ってきましたが、

下水道普及率向上に伴い消化ガスの発生量が増加し、50%以上を活用せずに燃焼していること。

既存発電設備が老朽化し維持管理費が増加していること。

などの理由から、**資源の有効利用による環境負荷の低減と、エネルギー自給率向上による管理費削減**の取り組みとして、**560kw の消化ガス発電設備への更新**を行ったものです。



下水道ワンポイントレッスン1

最初沈殿池
下水をゆっくり流して、沈みやすい細かいゴミなどを取り除きます

反応タンク
活性汚泥中の微生物の働きによって汚れの主成分である有機物を分解し、下水をきれいにします。

最終沈殿池
反応タンクからの流出水をゆっくり流して活性汚泥を沈殿させ、きれいな上澄み水を分離します。沈殿した活性汚泥は再び反応タンクに送り、下水処理により増えた分は汚泥処理施設で処理します。

塩素滅菌池
上澄み水を消毒殺菌して河川に放流します。

汚泥濃縮設備(重力濃縮槽、機械濃縮機)
重力による自然沈殿と機械的な分離により汚泥を濃縮します。

汚泥消化タンク
密閉したタンク内で汚泥を加温・攪拌することで汚泥中の有機物が分解して、消化ガス(メタン約60%、CO₂約40%)が発生し汚泥が減量します。又病原性の細菌やウイルスは死滅、あるいは減少し汚泥が安定します。

汚泥脱水機
消化汚泥から水分を取り除きケーキ状(脱水ケーキ)にします。

焼却炉
脱水ケーキを焼却してさらに減量します。焼却灰は建設資材として有効利用します。

消化ガス発電設備更新 (135kw 560kw) のエコなポイント

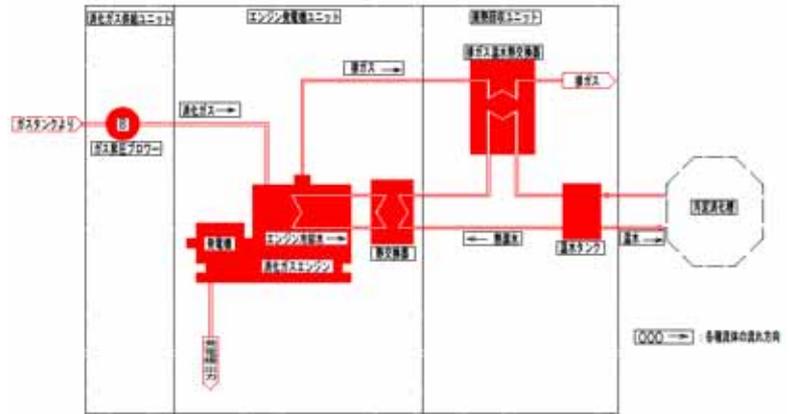
その1 地球温暖化防止 CO₂排出量の抑制

カーボンニュートラルなバイオマスエネルギーを使用することで**買電電力の二酸化炭素排出量を抑制**できます。

0.53kg CO₂/kwh × 3,836,000kwh/年 2,033t-CO₂/年 (H20年度東北電力排出係数使用)

その2 廃熱利用による効率化

排ガスとして大気中に放散される**廃熱を排ガス温水熱交換器により回収**し、消化槽の加温に利用することにより**エネルギー利用の効率化**が図られます。



消化ガス発電フロー図

その3 消化ガス有効利用率の向上とエネルギー自給率向上による電力料金の縮減

消化ガス有効利用率が約46%から約67%まで向上、エネルギー自給率も約7%から約30%に向上し、管理費が削減されます。



発電機 (奥の円筒形部分)



消化ガスエンジン (V型 16気筒)

消化ガス 使用方法	ガス発電更新前		ガス発電更新後	
	使用量	比率	使用量	比率
有効利用				
消化タンク加温燃料	712	19.5%	68	1.9%
焼却炉補助燃料	445	12.2%	445	12.2%
ガス発電燃料	530	14.5%	1,932	52.8%
有効利用計	1,687	46.2%	2,445	66.9%
非有効利用				
余剰ガス燃焼	1,971	53.8%	1,213	33.1%
非有効利用計	1,971	53.8%	1,213	33.1%
合計	3,658	100.0%	3,658	100.0%

消化ガス利用率

下水道ワンポイントレッスン2
~カーボンニュートラルの原則~

生物由来の再生可能な有機資源をバイオマスと称し、「その燃焼に伴い発生するCO₂は排出量の合計には含めないこと」とされており、京都議定書に温室効果ガス削減目標が定められて以降、バイオマス普及への期待は一層高まっています。

<都南浄化センター見学のご案内>

浄化センターの見学は(財)岩手県下水道公社で受け付けています!

お気軽にお問い合わせください!

【申込先】

(財)岩手県下水道公社 県南支社 都南出張所

TEL: 019-614-9170

FAX: 019-637-8729

「いわて花巻空港ナイトバスツアー」開催！！

花巻空港事務所

花巻空港事務所では、平成22年3月6日(土)に「いわて花巻空港ナイトバスツアー」を開催しました。

今回のバスツアーは、地元の方々から「近くに空港はあるけれど、あまり行ったことがない」、「空港に何があるのかわからない」などの話があったことから、より身近な空港を目指して、地元の花巻市立宮野目小学校の児童を招待して“**空港の夜の顔**”を見学していただいたものです。

これまで花巻空港事務所では、学校などからの依頼により、日中の空港見学を実施してきましたが、今回はこちらから積極的に働き掛け、夜間の空港見学を初めて開催しました。

また、開催にあたっては、国土交通省東京航空局花巻空港出張所(管制塔の見学)、(株)セノンみちのく支社花巻出張所(空港化学消防車の見学)、岩手県空港ターミナルビル(株)(記念品の提供、ターミナルビルの開放延長)、(株)日本航空インターナショナル(航空機の見学)など、空港関係機関が連携して実施しました。

バスツアーには、小学4年生から6年生までの児童44名と教諭2名の計46名が参加し、バス1台に乗り込み、管制塔や空港化学消防車の見学、航空機との記念撮影を行いました。

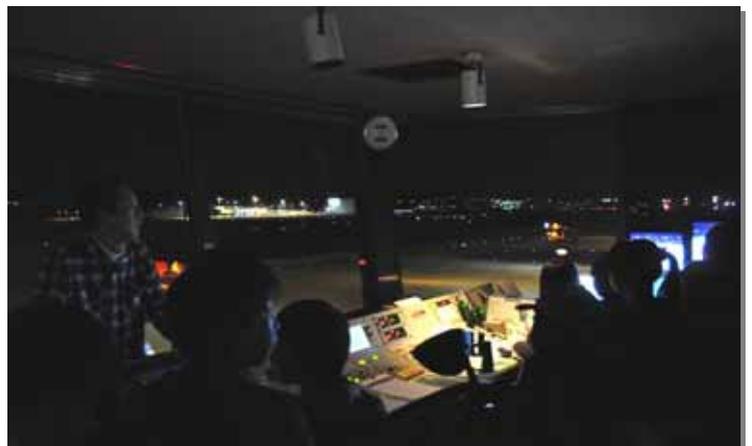
バスツアーのクライマックスには、バスに乗って滑走路を走行し、夜の航空灯火を見学したほか、実際に滑走路に降りて滑走路の広さや構造を学習していただきました。

児童は普段入ることができない空港制限区域に入り、目前の航空機の大きさに驚き、目を輝かせながら滑走路を走りまわるなど、興奮しながらいわて花巻空港を体感しているようでした。

今後とも、関係者が連携して空港に対する関心を高め、より身近ないわて花巻空港となるよう取り組んでいきます。



空港化学消防車を見学



管制塔内部を見学



夜の滑走路を体感



航空機とみんなで記念撮影！

市街地のリニューアルが進んでいます！！（釜石市）

～にぎわい創出を目指して～

釜石地方振興局土木部

釜石市では、釜石市東部地区都市再生整備計画を策定し、国のまちづくり交付金を活用して、老朽が進んだ道路、公園等の都市基盤の整備を進めています。

実施にあたっては、市街地のにぎわい創出を目指して、平成18年度から、社会実験や、地域住民との意見交換会、ワークショップ等を重ね、平成19年度から工事着手し、整備を進めています。平成22年度に事業完了を予定しており、地域住民の方々からも早期の完成が期待されています。

整備状況

青葉通り線・緑地



真ん中の雨水幹線の蓋の部分をウッドデッキにして広く使える緑地に！

薬師公園



海が見える公園として眺望を復活！

（写真）左：整備前、右：整備後

にぎわいの状況

改修された緑地で開催された産直市（水曜市）



緑地、道路を一体的に使って開催された虎舞大競演祭



いわて花巻空港 空港限定「空弁」発売開始！

空港課・花巻空港事務所

岩手県の空の玄関「いわて花巻空港」では、平成22年2月10日から、**いわて花巻空港限定「三陸・釜石発『浜のおにぎり』空弁」**を発売しています。「『浜のおにぎり』空弁」は、釜石市内のホタテ専門店(有)ヤマキイチ商店が、釜石市の新産業創出促進助成事業補助金を活用して開発したものです。

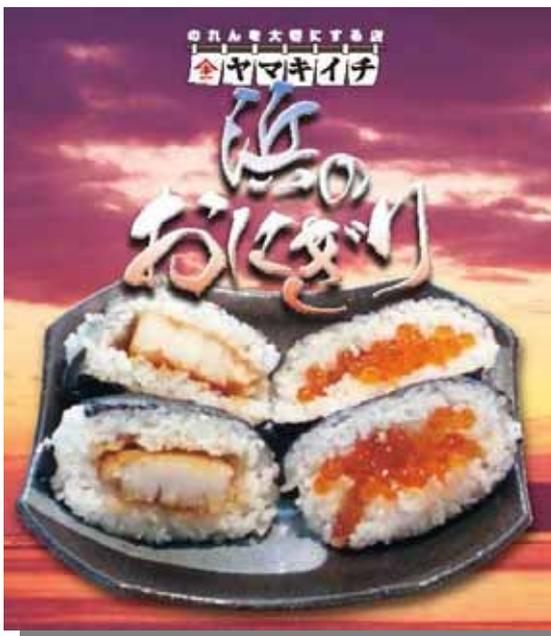
「『浜のおにぎり』空弁」は、**岩手県産**の優れた食材を豊富に使用しており、まるで、「田舎のお母さんがにぎったような」ボリュームたっぷりのおにぎり2個をホタテ貝の上に乗せ、海の幸をイメージしたハンカチで包まれています。

～「『浜のおにぎり』空弁」の食材～

- 🍳お米・・・岩手純情米 ひとめぼれ
- 🍳のり・・・三陸産焼のり
- 🍳ホタテ・・・醤油やみりんなどで味付けし煮込んだ、貝柱の直径が約4cmの大きなホタテ。
- 🍳イクラ・・・初秋に獲れた最高級の銀毛鮭の一番手イクラ。

三陸の「おいしさ」がたくさんつまった**いわて花巻空港限定「『浜のおにぎり』空弁」**は、おにぎり2個セット（ホタテおにぎり・イクラおにぎり各1個）で、いわて花巻空港内1F「[SHOP&CAFE hana](http://www.hna-terminal.co.jp/)」で、**1日約20セット限定、500円（税込）**で販売しています（食材の仕入れ状況により販売数を変更する場合があります）。

「『浜のおにぎり』空弁」に関する情報は、**いわて花巻空港のホームページ**（<http://www.hna-terminal.co.jp/>）にも掲載しておりますので、ぜひご覧下さい。皆さまのお越しをお待ちしております。



道路脇の草刈りに協力いただける団体を募集します

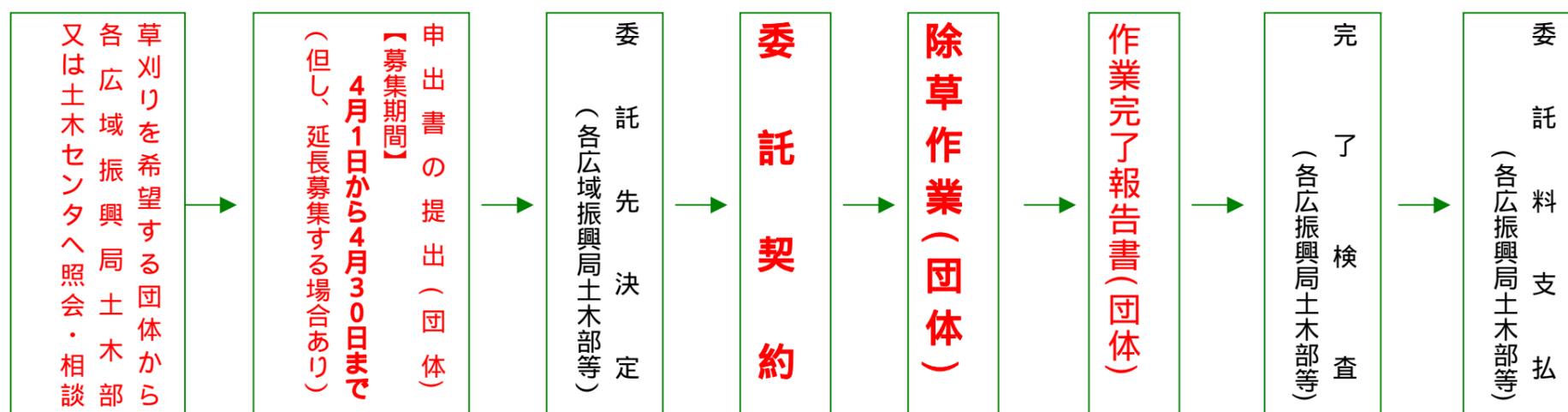
～住民団体等への草刈り業務委託制度～

道路環境課

道路をいつも安心・安全で使いやすい状態に保つためには、草刈り、清掃、除雪、施設の修理等日常の管理が欠かせません。その中で県が管理する道路脇の草刈りは、これまで県が統一的な基準で実施してきたため、地域の実情にあった草刈りが出来ていないという声が多数寄せられていました。

このような状況を踏まえ、県では平成18年度にモデル地区を選定し、「住民団体等による草刈り業務委託」を試験的に実施したところ、多くの地区から地域の実情にあった草刈りができて満足であるという声をいただくことができたことから、**住民団体等と協働で実施する草刈り業務委託制度を県内各地で推進**しています。

委託制度のながれ（平成22年度版）



6月初旬頃

草刈り実施範囲

草刈りの対象箇所は道路両脇 **0.5～1.0m** とします(図参照)。草刈りの実施区間は、最寄りの各広域振興局土木部又は土木センターと協議の上決定し、委託を受ける団体が存在する地域、または隣接地域の範囲内とします。

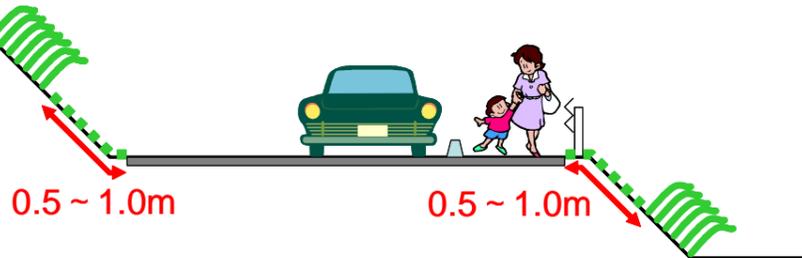


図 草刈り範囲イメージ

対価について

除草面積、作業方法によって決定します。保険代、道路使用許可申請費用、交通誘導員費用は含まれています。処分費が必要な場合は別途協議します。

【参考】下表は平成21年度単価の例

	除草作業のみ	除草・集草作業	除草・集草・積込運搬
1,000m ² ～ 1,200m ² の場合 (最低面積)	39,900 円	49,350 円	63,000 円
面積加算分 (200m ² 毎)	4,830 円	6,720 円	9,450 円

留意事項

業務委託期間は**概ね3ヶ月間**です。希望する団体は概ね 20人以上の団体 を目安とします。契約できる面積は事務手続き業務を考慮して 1,000m²以上 とします(上図の刈幅の場合は、約500～1,000mの延長相当)。契約できる額は、100万円までとします。慣れない作業となるため、安全面には最大限注意していただくこととなります。特に道路使用許可申請、交通誘導員の配置、保険加入(障害・賠償)については必須となります。必要に応じてヘルメット、安全チョッキ等の貸し出しをいたします。上記については、地域の実情を考慮しますので、お気軽に窓口にご相談ください。

道路脇の草刈りに協力いただける団体募集の詳細は、こちらの道路環境課 HP をご覧ください！！

<http://www.pref.iwate.jp/view.rbz?nd=815&of=1&ik=3&pnp=17&pnp=66&pnp=781&pnp=815&cd=18460>